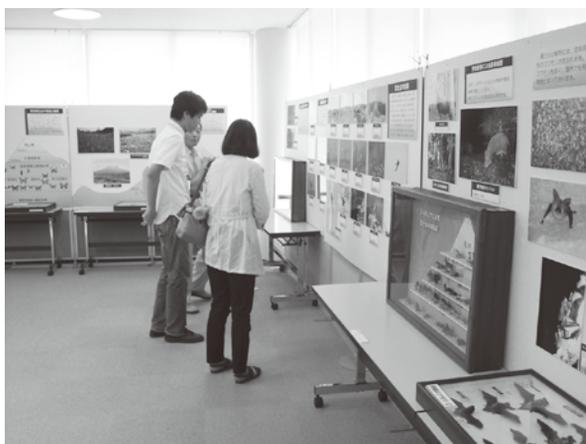


裾野市立鈴木図書館「富士山の生き物たち」

山田晋之介



見学者に展示の説明をしているところ

8月25日、裾野市立鈴木図書館にて「富士山の生き物たち」の展示解説を行いました。この施設は1階に図書館、2階に展示室、3階には市民参加のイベントを行える部屋があり、さらに3階の展望台からは、富士山と愛鷹山を望むことができるという、大変素晴らしい造りになっています。静岡県にお住まいの方々の多くは、富士山の見える光景は身近すぎて、それに深く感動する機会は少ないと思いますが、この展望台から眺める富士山の雄大さと美しさは、静岡県民にとっても一見の価値があります。

今回の展示では、富士山で見られる生き物の写真パネルと標本が、展示室いっぱいにならべられ、御来場頂いた方々を驚かせていました。会場に入って最初に目に留まるのは、富士山に生息する哺乳類の写真と標本です。特に見学者の方々が驚かされていたのは、ふだんはなかなか見ることのできないモグラの標本でした。種ごとに並べられたコウモリの標本も、その種の多様さで、皆さんの目を惹いていました。

哺乳類の次は、色とりどりの野鳥の写真が貼られた展示パネルが続きます。美しい野鳥の写真は見るだけでも楽しいもので、多くの方々が足を止め、長い時間写真を観賞されていました。なかには「鳴き声が聞けたらいいのに」という要望をくださる方もいらっしゃいました。確かに鳴き声は、鳥の魅力の



熱心に展示物を見学する見学者

大きな要素のひとつであることに、間違いはありません。今後の課題です。

哺乳類、鳥類の次には、昆虫類、魚類、両生類が並び、最後に植物の展示パネルが設置されています。これらの展示では、ふだん我々が身近に目にするのできる（できた）生き物が数多く並んでいるため、見学者の皆さんは親しみをもって御覧になっていました。そして、これらの展示を通じて、時代の変化、言い換えれば環境の変化によって、今現在の富士山周辺にある自然に、こういった現象が起きているのかを、多くの方々が関心を持たれたことと思います。

今回出前博物館を行って、見学者の皆さんが自然環境や身近な生き物たちに、深く関心を抱いていることがわかりました。質問も展示内容に関することから、これまで目にした生き物に関する素朴な疑問、果ては生物分類に関することまで多岐にわたり、その旺盛な知的好奇心に、こちらが驚かされる場面もありました。

近年、多方面から「生物多様性」という単語が聞こえてきます。しかし、その単語の意味と大切さは、一般の方々に広く知られている（実感されている）とは言えないのが現状です。そのため、私たちの活動及び、建設に向けて動き始めた県立博物館が重要となる局面が、今後ますます増えていくことを確信しています。